

## 22 研修医による SWOT 分析からみた新潟市民病院消化器内科の課題抽出

古川 浩一

新潟市民病院消化器内科

研修医自らが当院の消化器内科を分析し、そこから浮かび上がる希望や課題を抽出し、「何を学び、何を伝えるか」という観点から、彼らが求め、我々が彼らに提示すべきメッセージを考察する。戦略分析の結果を尊重した、研修医が理解しやすい医師像の提供が必要であり、研修医は消化器科に興味がないわけではなく、指導体制によらず、業務の多さはむしろ魅力的な研修につながる可能性が示された。しかし、疲弊した医師像は避けるべき課題と考えられ、新潟県の消化器内科研修には、現役の消化器科医の保護からはじまる、医療資質のバランスを考え、政策誘導と呼応した戦略が必要といえる。

## 23 消化器病診療の研修と教育

### —放射線診断科の立場から—

加村 毅

信楽園病院放射線診断科

県内基幹病院の放射線診断科（当科）医師にアンケート調査を行い 37 名（うち診断経験 10 年未満（若手）13 名）から回答をえた。興味ある臓器は肝胆臓が多かったが若手では消化管と差はなかった。興味ある撮像法は CT, MRI が大半で、今後有望な領域は仮想内視鏡が多く、消化管の CT, MRI が関心事と思われた。消化器内科・外科研修医への当科の貢献は各研修医の画像に関する質問への回答が主のようであり、診断依頼時に提供してほしい情報は依頼理由、現病歴、臨床症状が多かったが依頼理由以外は電子カルテ等が機能すれば不要との意見が特に若手に多かった。当科の報告書が役立っていないという回答が少数あり、当科の努力の他、システム上の工夫も必要かもしれない。当科の年上の医師に勉強不足を感じたものが 15 名あり、教育は年長者

に対しても必要と思われた。

## 24 消化器外科医が育つ土壌づくり 当科の現状そして課題

皆川 昌広・畠山 勝義

新潟大学消化器・一般外科

近年、全国的な外科医離れが叫ばれており、新潟県でも現実問題となってきた。いくつかの要因があるが、その一つに外科治療の対局となる萎縮医療傾向があり、外科を目指す人材が失われている。新潟県の医療を支えるため、我々は外科医を目指す貴重な人材を育てる環境作りが必要であり、それが人材を集める契機となると考えている。外科医が育つ土壌を整える因子は多くあるが、特にリスクマネジメント・法整備による萎縮医療改善や麻酔・救急などの業務低減によって、手術に集中できる環境を作っていく必要があり、教室・外科医全体そして指導する関連病院の相互評価によって作っていくことで、消化器外科医の修練環境を整える方法を検討中である。